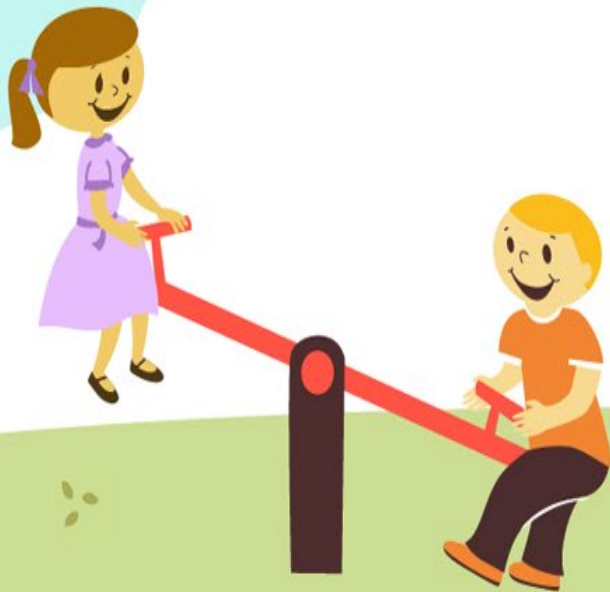


飼育のメリットと課題

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



- ・人と動物の共生センター：生活困窮者のペット飼育問題調査・活動報告書
- ・環境省：人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン
～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～
- ・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター：ペット飼育と認知症発症リスク
：ペット飼育が介護費の抑制に影響

飼育のメリット

- ① 精神的支援・生活の質の向上
 - ・ 孤独やストレスの軽減
 - ・ ペットが心の支えとなり、生活に希望をもたらす
 - ・ 日課の発生（餌やり・散歩など）で、生活リズムが整う



飼育のメリット

② 社会的つながりの創出

- ・ ペットを通じて近隣住民と交流が生まれる
- ・ 支援者や相談機関との関係構築のきっかけになる
- ・ 孤立防止のきっかけ

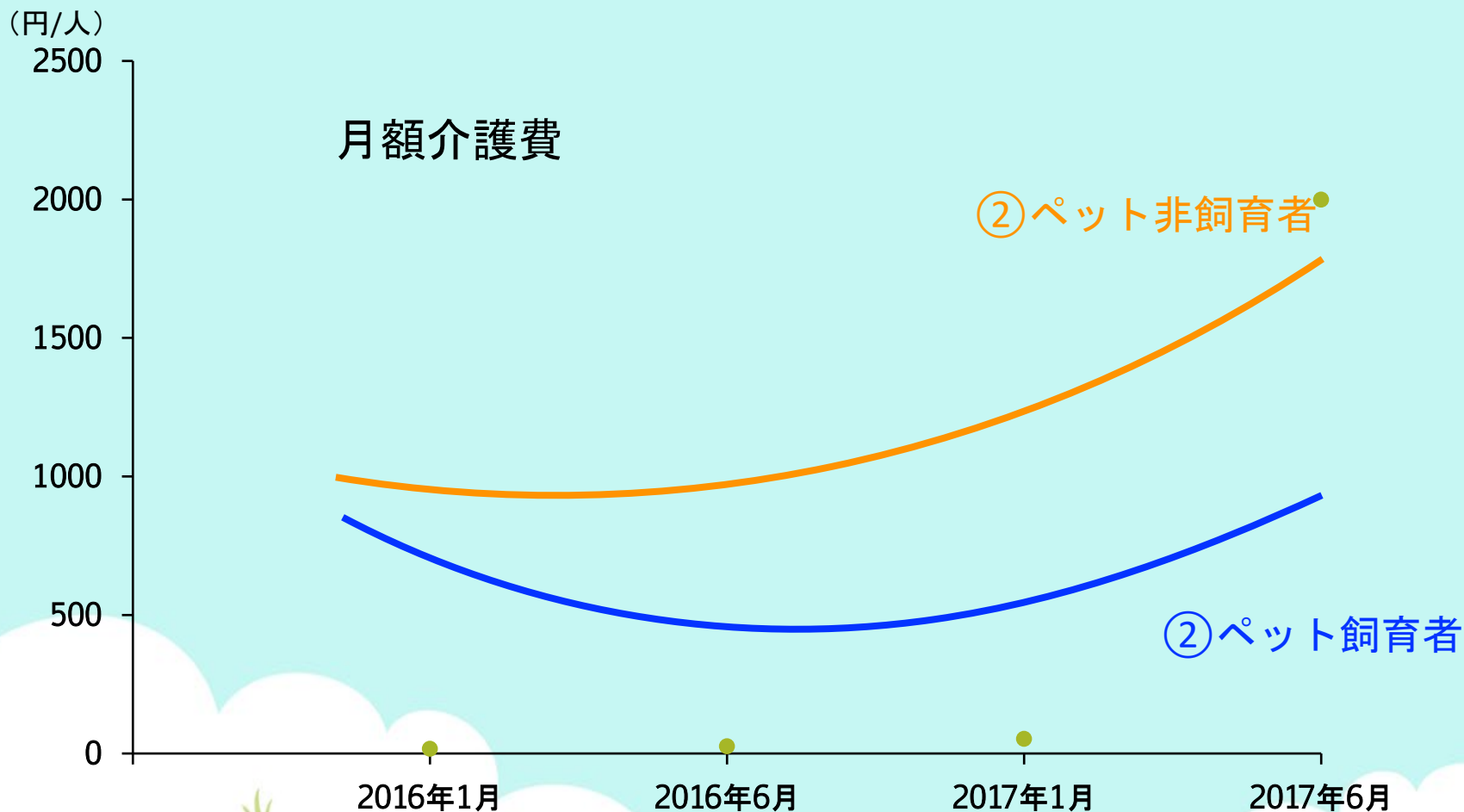


飼育のメリット

- ③ ペット飼育が介護費の抑制に影響
- ・ ペット飼育は、介護予防に一定の効果。
 - ・ ペット非飼育者に比べて飼育者では介護費が約半額に抑制されている。
 - ・ ペット飼育者では、利用する介護サービスの利用頻度が低いことや、軽度の介護サービスの利用に繋がっていることが考えられる。

「ペット飼育が介護費の抑制に影響」

高齢化の進展に伴う介護費の増大に対し、ペット飼育は介護予防効果のみならず
介護給付費が約半額に抑制されることが初めて明らかに



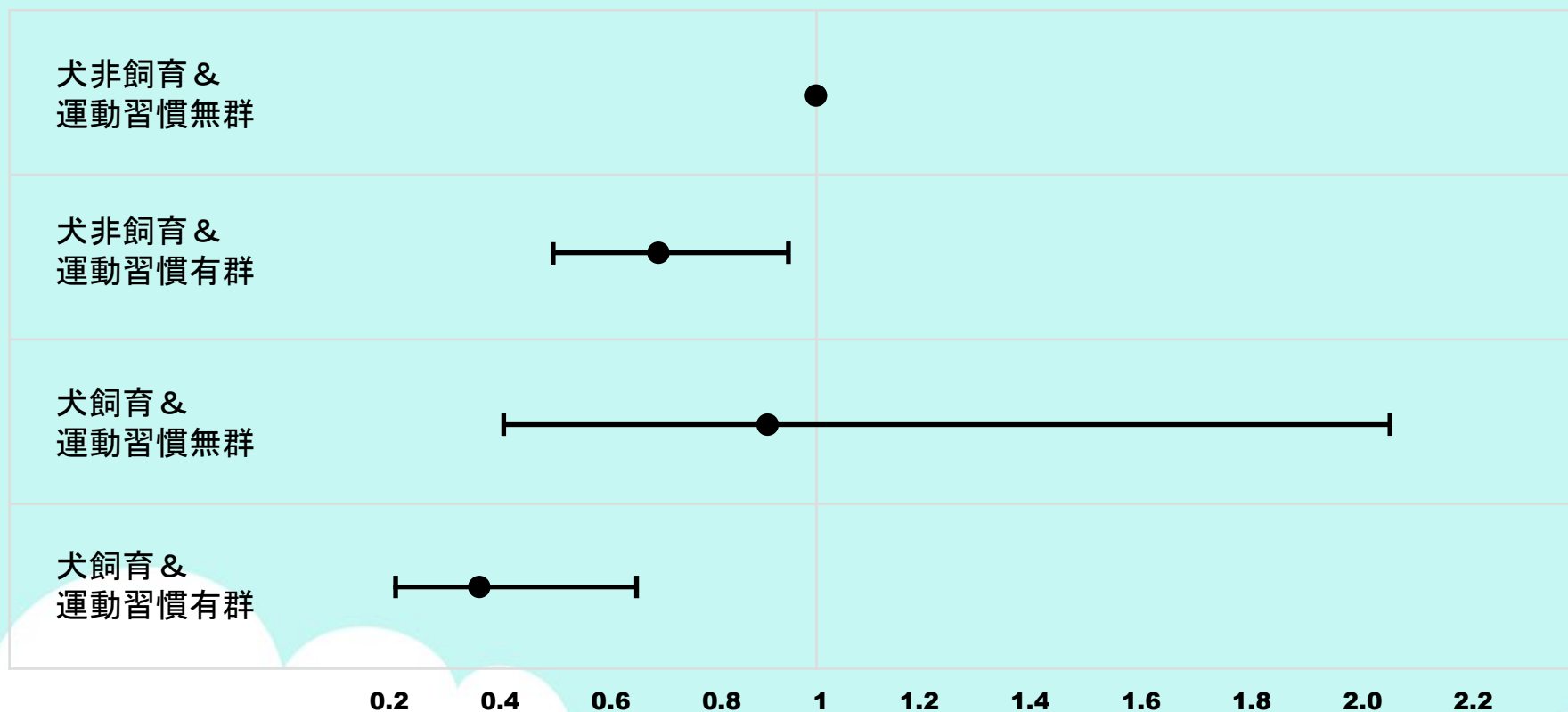
飼育のメリット

④ ペット飼育と認知症発症リスクの低下

- ・ 犬の飼育者では、非飼育者に比べて認知症が発症するリスクが40%低い。
- ・ 犬飼育者のうち、運動習慣を有する人、社会的孤立状態にない人において、認知症発症リスクが低下。

「ペット飼育と認知症発症リスク」

犬の飼育を通じた運動習慣や社会との繋がりにより
認知症の発症リスクが低下することが初めて明らかに



犬の飼育及び運動習慣の有無別にみた認知症発症オッズ比

課題

① 経済的負担

- ・ フード・医療費が困難
- ・ ペットホテル費用が払えず入院断念等の事例



課題

② 多頭飼育と衛生問題

- ・繁殖制限（避妊去勢等）されず繁殖、頭数増加
- ・衛生状態の悪化
- ・訪問介護・看護の妨げに



課題

- ③ 医療・福祉施設の利用制限
- ・ ペットを手放せず入所や入院を断念
 - ・ ペットがいるために施設入所や入院を拒まれる
 - ・ 必要な支援の拒否に繋がる



課題

④ 孤立と多頭飼育の悪循環

- ・ 孤独から飼育依存→多頭化→環境悪化
- ・ 家庭崩壊や虐待的状况に発展するケース

課 題

- ⑤ 不十分な公的支援制度
 - ・ 入院・介護施設入所時の、ペット受け皿不足
 - ・ 飼育困難時の里親制度の法的位置づけの弱さ
 - ・ 住宅・施設での飼育制限
 - ・ 介護・福祉制度との連携不足
 - ・ 動物福祉と人の福祉の制度的乖離

まとめ

【メリット】

- 精神的支援
- 生活リズム
- 社会的接点
- 認知症リスクの低下
- 介護費の抑制

【課題】

- 経済的負担
- 衛生、環境問題
- 施設利用制限
- 公的支援制度の整備

